

- ・ 石狩川の魚道を見よう、考えよう（報告）
- ・ 事務局便り

石狩川の魚道を見よう、考えよう（報告）

前号で紹介した標題の現地見学と検討会が行われました。

この活動は、大雪と石狩の自然を守る会が、市民にも呼びかけて実施したもので、専門的立場から、弘前大学東准教授、北海道サケネットワーク浦野代表、北海道サーモン協会木村代表も加わり、約50名の参加で実施しました。

危ぶまれた天候は、バスが出発する頃から降り出し、最も問題視されている深川市の花園頭首工でも雨が降る中でしたが、参加者は専門家の意見を聞きながら熱心に見学していました。

《花園頭首工は、大正5年に端を發し、水田の補水を目的に建設されたが、昭和62年、上流に北空知頭首工が出来て、平成8年からは取水の役割は終えている。その間、平成6年には、「魚が上りやすい川づくり推進モデル河川」に指定され、現在の魚道が設置された。その後、開発局では魚道の遡上調査を行い、遡上確認を行っているが、関係者間では通過率は極めて小さいと見ており、今年から始まった石狩川の天然産卵資源回復試験で行ったサケ稚魚大量放流の回帰時には大きな障害となる、との危惧が持たれている。

これまでの施設改善の申し入れに対する当局の説明では、えん堤上流にある橋脚保護のためにも、えん堤の存続は必要との見解を示している》

この後、雨も上がり、北空知頭首工を始め石狩川系の旭川周辺5カ所の頭首工を見学しそれぞれに設けられた魚道施設を見聞しました。

夜の検討会では、専門家による魚道やサケの生態についての解説も交え、熱心な討論が行われ、旭川市民の「サケをふるさとに」の強い気持ちが伝わっていました。

最後に事務局から、「本日の討論を参考にしながら必要な改善策をまとめ、えん堤が遡上障害にならぬよう、当局に改善を申し入れる」との表明があり、会を閉じました。

事務局便り

今月31日の ネットワーク総会とサケ会議の出欠連絡を

まだ連絡をされていない会員の方は、予定決まり至急、事務局へご連絡ください。

《連絡事項》

- ・ 北海道サケネットワーク総会
- ・ 北海道サケ会議
- ・ 終了後の交流会

の3つに分けて、参加の有無、人数をお知らせ願います。